

住友商事株式会社

<https://www.sumitocorp.com/ja/jp/sustainability/environmental-management/biology>



《将来に向けた取組方針》

将来に向けた取り組み方針：住友商事グループの事業活動は、地球上の多様な生物とそれらの繋がりにより生み出される生物多様性がもたらす恵みに大きく依存しています。従って、当社グループの環境方針で明示しているとおり、自然生態系などの環境保全ならびに生物多様性の維持・保全に十分配慮することは当社グループにとって重要な課題であると認識しています。生物多様性に重大な影響を与え得る事業活動に関して、どのように生物多様性に依存しているのか、また、どのような影響を与えているのかを把握した上で、生態系への影響を最小化し、回復にも寄与することに努めます。

〈具体的取組み事例〉

バードフレンドリー[®] コーヒー事業

当社グループは、生物多様性に配慮し、農家の安定収入にもつなげる取り組みとして、2004年からバードフレンドリー[®] 認証コーヒー（以下、BF[®] 認証コーヒー）の輸入・販売を手掛け、2014年度からは住商フーズにてBF[®] 認証コーヒーを取り扱っています。BF[®] 認証コーヒーは、自然林と同様のシェード（木陰）を保ちながら栽培することで、環境保全やそこで羽を休める渡り鳥の保護につながる取り組みです。米国スミソニアン渡り鳥センターがその認証基準を設定し、現在、全世界で12カ国、52農園・農協（2020年5月現在）が認証を受け、収益の一部は、同センターの渡り鳥



BF[®] 認証コーヒーの収穫



の研究・調査・保護活動に使われています。今後も本事業を通して、世界中の渡り鳥保護・生態系保護に貢献していきます。

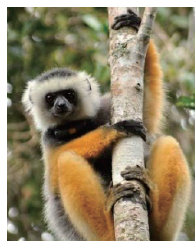
この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

マダガスカルを持続可能な発展に貢献するアンバトビー・プロジェクト

当社が資本参加するマダガスカル・アンバトビーのニッケル鉱山開発事業では、1,000種もの希少動物が息づく貴重な自然環境に対する十分な配慮のもとに、開発・運営を進めています。

例えば、鉱山の開発にあたっては、約1,800haの鉱山サイトの周辺に生息動物の保全先として約4,900haの「バッファゾーン（緩衝地帯）」を設けました。また、国際環境NGOなどと共同で実施した生態調査の結果、保護が必要と判断された絶滅危惧種などについては、保護区内に移植したり、養魚システムで飼育したりするなど、さまざまなプログラムを実施して生態系への負荷低減を図っています。

さらに、“No Net Loss, Net Gain”のコンセプトのもと、大規模な「生物多様性オフセットプログラム」を推進しています。これは開発による生態系への影響を、別の生態系を復元・創造するなどし、緩和しようというアプローチです。具体的には、採掘場近隣エリアの保全やパイプライン埋設後の再植林、閉山後に向けた採掘場の再植林なども含め、4カ所の保全エリアでインパクトを受けたエリア面積の約9倍の総面積（14,000ha以上）の保全によりNet Lossをオフセットする計画です。



希少種カンムリシファカ